令和８年度　第２回　浜松中部学園運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和８年９月３０日(木)　14 時 00 分から 16 時 00 分まで
２　開催場所　　浜松中部学園　会議室
３　出席委員　　村井　秀行、鈴木　秀夫、馬渕　吉晴、富田　昌和、森川　誉進、三ツ井　りか
　　鈴木　康子　三浦　一哲
４　欠席委員　　桐井　晶、広瀬　恵子、鳥居　浩幸
５　学　　校　　鈴木　公一（校長)、松島　賢（教頭)、杉山　貴和（教頭）
　　池内　伸彰(主幹教諭)、 井上　佐矢子（ＣＳディレクター）
６　教育委員会　横井　靖二指導主事
７　会議録作成者　ＣＳディレクター　井上　佐矢子
８　傍聴者　　なし
９　議長の選出
　司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
10　会議記録
司会から、委員全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。
教育総務課挨拶
　横井指導主事から挨拶

会長挨拶
　本学園は１０年目を迎えた。協議会は令和４年から正式に設置され、２期目の中間を迎えた。
　第１回では、本学園の運営方針を熟議し、全員の可決をいただいた。その実現に向けて全員で取り組んでいくことを理解していただきたい。
　１０年前に開校式典を行った。当時の鈴木康友市長が、本校には費用も年月もかけた。引佐北部小中、庄内学園に次ぐ第３の小中一貫校として開校した。保護者の方、地域の方が力を合わせてすばらしい学校にしてほしいと祝辞をいただいた。開校準備委員会の故今村委員長は、将来は浜松一という冠をいただくだろうとおっしゃった。初代ＰＴＡ会長の中川様は、輝かしい学校になるとおっしゃった。初代校長の原田様は「高い志をもち」を学校目標に浜松一の学校にしていきたいとおっしゃった。この激励や決意の言葉を学校運営協議会で集約し、達成するのはみなさんの双肩にかかっています。本日は３つの課題について熟議していただきたい。特に２つ目の課題は重要であると考える。野秋教育長も挨拶や講話で述べておられる。その真の目的は、先生方が本来の業務に専念できる時間を確保することである。関係機関の協力なしには成しえないとおっしゃっている。地域と保護者で協力して、本学園を浜松一の学校にできるようお願いしたい。

校長挨拶
　中等部の合唱コンクールを明日に控え、校内に合唱の声があふれるよい時期を迎えている。翌週には初等部の修学旅行、中旬には中等部のＳＦがあり、学校が沸き立つような、充実した日々を送っている。
　本校職員の後藤亜規子が７月に亡くなった。お通夜には多くの職員や生徒、保護者、卒業生が参列してくださり、先生が慕われていたことが伝わってきた。後藤先生は本校の卒業生であった。
　先日、初代校長の原田先生とお会いした。当時の様子や期待することを伺った。全力で責任を果たし、次へと受け継いでいきたい。
　本日の熟議では、忌憚のないご意見をいただき、改善すべきことには勇気をもって取り組んでいきたい。

前回会議録の確認

資料をもとに前回議事録の確認。

ご意見いただいたことをもとに、キッズチャレンジビジネスの開催場所について校内で協議した。児童の食事場所や休憩場所の確保、大きな声で呼び込みをすることができるということから、課題はあるものの浜松城公園で行うしかないという意見がでた。代わりに、情宣をすることにする。例えば、回覧板やポスターの掲示等が考えらえる。学校としては、広報活動の充実を提案したい。

新人戦の壮行会は昨年度もご参観いただいたこと、本日の熟議に時間が必要であることから、内容を変更させていただいた。

議長の選出

鈴木委員を選出

熟議

（１）教育課程評価（中間）の報告について

・池内より資料をもとに報告
・立場の違いによるものを読み取っていきたい。（富田委員）
・小さいことも含め、いじめをしてはいけないという意識が上昇していることが印象に残った。（馬渕委員）
・情報教育について、先生方は厳しい目で見ていることが伝わる。（三ツ井委員）
・あいさつについて、子供・保護者と教職員の評価が離れていることが印象に残った。（康子委員）
・朝の挨拶をしていて、２人ほど先に挨拶してくれた。７割くらいは返してくれる。挨拶はコミュニケーションの初めだと思う。他の数値がよいので、コミュニケーションについては問題ないと感じる。自分で選んだり考えたりする力については課題に感じていると思った。いつも挨拶すると、子供たちもいざというときに助けを求める関係ができると考え、挨拶運動を続けている。（森川委員）
・中沢で旗振りをしていると、子供から挨拶をしてくれる。よくできていると感じる。（秀夫委員）
・情報教育が気になった。子供・保護者と教職員が違うことから、高いものを求めていると感じた。特色ある活動・地域連携の評価が低いことは、地域の人間として反省したい。小中一貫校のよさについて評価が高いが、浜松ナンバー１を目指す身としてはさらに向上してほしい。（三浦委員）
・夢や目標があるが低く、これがないと将来一人前になることはできないと考える。どんなに小さなことでもよいので目標をもってほしいと、ある講演で聞いた。自分の友人でも、強い目標をもっていたものは、それなりの者になっている。特色ある活動・地域連携で、ボランティアの参加状況が少ないと聞く。佐藤所長の話などからも、この評価通りだと感じている。校内での挨拶は１００％してくれる。校外でもベストを着ているとしてくれるが、普通の服装ではしてくれない。知らない人に注意しろと守っているともいえるが。朝、毎月立ってくれている方もいる。全国統一挨拶運動もある。挨拶から始まるといわれる。引き続き取り組んでいただきたい。（村井会長）
・先生自身が、住んでいる町のよいところを知っているかを聞いてみたい。（富田委員）
・先生は地域の催しの際に参加を呼びかけるが、その中で参加する子供が少なく、以前のような一体感の減少を感じながらも、どうすれば地元のよさを感じられるのかという課題からの結果であると考える。地域のよさは、一度離れてみないと分からないものもある。数値だけでなく、その手段を考えていきたい。（鈴木校長）
・先生は、地域の催しに参加してほしいと考えていることが分かり安心した。あとは、地域がいかに魅力的なものにしていくかを考えていきたい。（富田委員）
・本地域はよくやっているほうであるが、高齢化も進んでおり、人がいない。（村井委員）

（２）教職員の業務量管理・健康確保措置について

・校長より、資料をもとに説明

浜松市「３つの柱に基づく５６の取組」は、教育委員会の各課ができることを洗い出したものである。そのうち、Ⅰ（２）教育ＤＸの推進では、⑩統合型校務支援システムの運営に取り組みで、県や国と統合していく動きもある。事務も、市役所と直接つながるようになった。金銭の不正なやりとりを防止することにもなる。手続が簡略化される。⑩では、ＡＩによる仕事の効率化が進んでいる場所もある。（３）①カスハラについては、文部科学省が指針を出した。学校現場では、カスハラに該当するか判断することが非常に難しい。あたりまえの常識が通用する世界が広がってほしいと考えている。それに通じるような方向性になってくれることを望む。今でも、極端な要求には「それはできかねます」と伝えているが、それが公な流れになると思う。教職員がメンタルで休むことがないようにしたい。Ⅱ（１）①健康診断の結果を校長が把握し、健康指導をしている。ストレスチェックも義務付けられていて、その場で結果が出る。④では、毎月、衛生委員会を開催し、元医療センター副医院長の小澤先生をお招きしている。健康に関する意識を高めている。

このような取り組みの結果、中等部・初等部ともに昨年度と比べて時間外勤務時間が減少した。特別な取り組みではなく、一人一人の意識掛けによるものである。先日、金融機関の担当者さんが来校された。地域の民生委員も務めている方が、こんなに雰囲気のよい職員室はないとほめてくださった。校長室にいても、心地のよい声が響いてくる。働き方改革を進める中で、プライドや矜持をもって取り組める職員集団が理想である。この成果を子供たちに還元できるようにしていきたい。すでに手は尽くしてきた。これ以上精選すると、行事等の質を維持することができない。その中で、指導法などできることを総動員して活動している。そのため、職員室の響き合う時間を奪うことはできない。今後も様子を見ながら取り組みを継続していきたい。

・銀行に勤めていたが、本当に難しい問題であった。業界全体でやらなくてはならない。「学校と教師の業務の３分類」も時間をかけ、割り切ってやっていかないといけない。（村井委員）

・国を含め、方向性として否定するものではない。先生は何でもやってくれると周りも甘えているところがある。統合型システムの問題は以前からある。学校と市役所がつながったのはよいことである。ＡＩは眉唾であると考える。（富田委員）

・我々は情報の根拠がしっかりわかるものしか使わない。（鈴木校長）

・それを理解して使うのであれば問題はない。（富田委員）

・職員室の雰囲気がよいと聞いてうれしく思う。長く携わってきて、子供たちが明るくのびのびとしているときは職員室の雰囲気がよい。校長先生によるものも大きい。本校で研鑽を積んだ先生が他校でさらに活躍する旗艦校としてあってほしい。勤務時間が長いのはどのような立場か。（三浦委員）

・部活動である。この９月から地域展開し、数値的には改善されると考える。（鈴木校長）

・８月の時間外があるのはなぜか。（村井委員）

・部活動である。県大会、東海大会、全国大会を目指したためである。（鈴木校長）

連絡事項

部活動地域展開の現状について

・松島教頭より説明…「移行」ではなく「展開」である。土日は始まっている。「はまクル」として先日も２時間３０分に渡り会議をした。運動部、文化部合わせて６つの部が地域展開している。それ以外に、体操クラブも体育館で活動し、７つの部が展開している。それぞれで調整し、練習場所が重ならないようにし、スムーズに進んでいる。連絡ができるアプリが構築されている。参加は自由制である。教員も関わっているが、トップは団体である。

次回の学校運営協議会について

・杉山教頭より説明…１１月１７日（火）午前中に開催し、１年生の授業も見ていただきたい。
　この際、１０年目の記念としてＰＴＡから鉄棒を寄贈していただいたのでお披露目もしたい。

横井指導主事：会長をはじめとする委員の皆様や校長先生の思いを本音でお話しいただいた会であった。「はまクル」もようやく軌道に乗ったところである。「３分類」に「学校は、学校運営協議会等での議論を経て、優先順位を定めながら、各校の実情に応じた運用を行う」とある。的を絞って取り組んでいっていただきたい。